

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 10

| | |
|-----------|---------------|
| 学校名・団体名 | 本庄市立藤田小学校 |
| コース | 学校支援 |
| 活動・研究のテーマ | 小山川・元小山川の河川調査 |

〈活動・研究の意義および活動報告〉

はじめに

本校の近くを流れる元小山川は、かつては湧水を水源とする清流で、埼玉県の魚「ムサシトミヨ」などの貴重な生物が生息していた。しかし、高度経済成長期に生活排水の流入や湧水の濁水などにより、県北地域で最も汚濁が進行した川となった。今後の地域の発展にとともない、水質環境がさらに悪化する恐れがあり、将来にわたり良好な水環境を維持していくことが必要とされ、平成16年度から、小山川・元小山川清流ルネサンスⅡの取り組みが始まった。

この事業の地域の取り組みとして、平成17年度から早稲田大学理工学術院榊原研究室、本庄県土整備事務所、NPO川・まち・人プロデューサーズの前身である水環境再生勉強会と協力して、本校6年生が年4回、小山川・元小山川の2つの川に直接入り、生き物調査と水質調査を行った。平成20年度からは、5、6年生が年2回、河川調査を実施している。調査の目的は、きれいな川（小山川）と汚れている川（元小山川）に直接入り、汚れている川をきれいな川にするためには何が必要なのかを、体験を通して学習することである。

本年度は、これまで本校が行ってきた取組を引き継いで、総合的な学習の時間に、5年生「元小山川・小山川から考えよう」6年生「元小山川・小山川から発信しよう」のテーマで、河川の水環境の改善を目指して活動した。



藤田小学校、小山川、元小山川の位置

活動の概要

(1) 元小山川について知る



地元の川博士と元小山川を散策した。昔は、大きな酒屋があり、元小山川の水を使って酒を造っていたという、歴史について学んだ。また、橋の名前について右岸がひらがな、左岸が漢字で表示されていることや、濁らずきれいな川であってほしいという願いから、元小山川は、もとこやまかわ、ふれあい橋は、ふれあいはしと濁点をつけないで読むことなどを知ることができた。

(2) 小山川・元小山川の河川調査



本庄早稲田リサーチパークや他の機関と協力して小山川、元小山川の河川調査を年に2回行った。内容は、①COD、DO、硝酸のパックテスト、②気温、水温、川幅、流れの速さ、透視度の調査、③川の生き物採集、魚類調査である。河川調査の結果から、元小山川は、においが強く、水量も流れもないことや、とれた生きものは、外来種が多いということがわかった。

(3) 自分たちにできることを実践する



元小山川の清掃活動

河川調査で、空き缶やペットボトルが多数落ちていることを知り、川をきれいにするために自分たちにできることを実践しようと考えた。そこで、川の応援団に参加し、元小山川牧西橋付近の清掃活動を行った。

河川調査新聞の発行

元小山川の現状について、新聞にまとめ発行した。河川調査新聞は、藤田小学校全校児童の各家庭に配布するとともに、藤田公民館に掲示、ホームページで公開した。

校内河川調査発表会

校内河川調査発表会を開催し、全校児童と保護者に向けて、学習の成果を発表した。

「川のシンポジウム」開催

本庄市内の川を取り巻く環境をテーマにした「川のシンポジウム2019～本庄の川を取り巻く環境について～」に本校の5年生が、学習の成果を発表した。

おわりに

年間2回の河川調査や、川の水質の現状について把握することができた。そして、地元の川をきれいにするために自分たちにできることを考え、具体的に実践できること（河川のゴミ拾い、河川調査新聞の作成等）を習慣にしていくことができた。河川調査新聞作成では、河川や環境について疑問に思ったことを調べ、わかったことや新たな発見について、子どもたちから発信した。下級生、地域の人、保護者など、多くの人に伝え、興味関心を持ってもらえることが期待できる。今後は、取組を通して、地域の自慢になるような小山川・元小山川になるようにしていきたい。